



友達が忘れていったパンフレットを読みました。

最初に、山田洋次が「生涯で一番大事な作品を作ろうという思いでこの作品を作りました。」とあるだけあって生涯を貫いた信念がある作品だと思いました。

どこにでもある普通の家庭、ささやかな幸せを営んでいる家庭がなんの予告もなく突然襲い掛かる戦争。こんな戦争は二度としてはならないという思いをこの映画はユーモアと涙を交えて訴えているのだと思う。－私は映画をまだ、見てないけれど－

このパンフで、映画作りのために蓄音機や古いカメラを探したりやみ市で買った缶詰ラベルまでいろいろと苦労して探したり・・・。映画作りがこんなに大変だとは知らなかった。スタッフも大変。

広島と長崎に落とされた原爆の種類が違い、広島は天然資源のウラン爆弾、長崎は原発でたくさん作りだされているプルトニウム爆弾だということも、このパンフで知りました。

50 個の模擬爆弾（パンフキン爆弾と言ってミキサー車くらいの大きさ）の一つが大阪市東住吉にも落とされたとはしっていましたが、8月14日終戦の前日まで落とされたということに、驚きました。